

シビルサポートネットワーク季刊誌 2016 年春号別冊

[CAFE0-33 (マレーシア大会) 参加報告 —世界遺産の島から—]

理事 出崎太郎

昨年 11 月末マレーシアで開催された CAFE0-33 に参加しました。今回はマレーシア北西部のペナン島で開催され、そのテーマは“From Light to Bytes : ASEAN Engineering Evolution and Future Challenges”でした。その中心市街地ジョージタウンは 2008 年世界遺産に登録されています。また、今回で特筆すべきは日本からの CAFE0 参加者が 20 名を超えたこと。その様子的一端を報告いたします。



ペナン島



CAFE0-33



ジョージタウンの旧市街地

CAFE0 (Conference of ASEAN Federation of Engineering Organizations) は、非政府系組織による東南アジア技術者の交流大会で、構成 10 カ国が毎年持ち回りで開催しています。日本はオブザーバーとして参加していますが、他に常連国のオーストラリア、香港、韓国なども参加しています。私は日本技術士会の一員として 21 回大会から連続して参加しており、今会で 13 回目になります。参加者は、現地集合・現地解散で、青年技術者の一部に日本技術士会から補助があるほかは皆自費での参加です。

CAFE0-33 は 11 月 23 日から 26 日までの開催で、私は前後の休日を利用して 22 日(日)に成田から出国し 29 日(日)に帰国しました。現在、私は東日本大震災復興支援の仕事に従事していて、気仙沼市に住んでいます。関東にいた時と違い、出国前に 1 日を要してしまいます。ペナン島へは日本からの直行便が無く、首都クアラルンプールから入るか、香港、シンガポールやタイのバンコクから入ることができます。私はクアラルンプール経由で入りました。

マレーシア (Malaysia) は、タイ、シンガポール、インドネシア、ブルネイと国境を接し、日本の 9 割ほどの面積に約 3,000 万人が住む立憲君主制の国です。民族は、67% がマレー系で他は中国系 25%、インド系 7% で構成され、イスラム教を国教としていますが、仏教、ヒンドゥー教、キリスト教徒もおります。マハティール首相時代の、近代化は日本・韓国に学べというルックイースト政策によって多数の留学生が送られたこともあり、日本語を話す若い人も少なくありません。近年、日本から老後の移住地として注目されている国でもあります。通貨は RM (リンギット)、1RM は約 30 円。

マラッカ海峡の入り口に浮かぶペナン島は、イギリスが1786年東インド会社を設立し、東南アジア進出の拠点として選んだ地であり、東西貿易の中継地である自由港として発展してきました。イギリスが貿易拠点をシンガポールに移してから、マレー半島産出のスズやゴムの積出港としての役割を果たしてきました。

淡路島のほぼ半分の大きさのこの島に約70万人が住み、中心市街地ジョージタウンは、イギリス統治時代の建造物も多く、2008年に半島側のマラッカとともに世界遺産に登録されています。「東洋の真珠」「インド洋のエメラルド」とも呼ばれ、マレーシア第2の観光都市となっています。



CAFEO 会場からの眺め



沿岸の通り

22日（日）10:30に成田空港を立ち、クアラルンプール経由で19:50その日のうちにペナン島に着きました。タクシーでCAFEO会場のホテルを通り越して予約してあるジョージタウン市街地内のホテルへ。ホテルは世界遺産の街中にあります。1時間ほどで着きました。翌日からはCAFEO開催のホテルに泊まることにしていたのですが、CAFEO終了後もこの街を歩き回りたいと思い、旧市街地内のホテルを取っておいたのです。街とホテルの下見です。

ホテルへチェックインし、その日は遅かったので、近くの居酒屋で食事を取りました。街中のホテルはこれが良い。ホテルの中での食事は味気ない。店には観光滞在中とみられる西洋人が多く、酒を飲んで談笑していました。缶ビール8.6RM。



宿泊したホテル



ホテルの中



近くの旧日本人街

翌日は、CAFEO会場のホテルのチェックインまでの時間を街歩きにあてました。歩いてこの島名物の屋台市場に行けます。規模はさして大きくはありませんが、いろいろなものが売られています。CAFEO終了の後もこのホテルに泊まることに決め、お昼にチェックアウトして会場のホテルに向かいました。会場のホテルは、空港に向かう途中にあります。チェックインして

シビルサポートネットワーク季刊誌 2016 年春号別冊

CAFE0 への参加登録を済ませました。



屋台市場のようす

今回の CAFE0 公式行事は、23 日（月）夕の歓迎パーティから 25 日（水）夜のさよならパーティを経て翌 26 日のテクニカルツアーまでです。歓迎パーティでは、顔なじみの参加者と再会を喜び、日本からの参加者とも初めて顔を合わせます。このとき、学生を含む 18 名の若い技術者が日本から参加していることを知りました。気仙沼へ居を移したこともあって、事前の情報がなかったのでびっくりしました。これまでは 3 人位の参加だったからです。ここでは主催者のスピーチのほかマレーシアの料理や民族舞踊、バンド演奏での歓迎を受けました。イスラム教国のためノンアルコールのパーティでした。



歓迎パーティで常連と



バンドの演奏



記念撮影

24 日（火）と 25 日（水）は、本格的な Conference が行われます。初日はオープンセレモニーが行われ、主催者による開会の宣言からはじまりました。午後からは AFE0 構成国による年次活動報告。合間にテクニカルセミナーが開催されます。日本から参加の技術士がトリウム原子力発電についてプレゼンしました。この次世代の原子炉は事故のあと冷却しなければ暴走するウラン原子炉と違って、事故の時に常温で停止するといいます。（トリウムを核化学処理し、ウランに変換してから使用するので、核分裂を利用するという意味では本質的な課題は残ると思いますが）参加者からの反応はいまいちという感がありましたがまだこの地域では関心が薄い

シビルサポートネットワーク季刊誌 2016 年春号別冊

テーマだったのかもしれませんが。その夜は、主催者によるナイトツアーが企画されていて皆でそれに参加しました。夕食を兼ねた市内観光という感じでした。

翌日のテクニカルセミナーでは別の先輩技術士が、敗戦体験からアメリカへのリベンジの思いが技術者へと導いたという自分の体験を紹介していました。



オープンセレモニー



ワーキンググループ



テクニカルセミナー

夜にはクロージングセレモニーが行われ、次回の開催国フィリピンに引き継がれました。そのあと恒例のさよならパーティが開かれました。参加者はナショナルドレスでの参加と国別にステージでのパフォーマンスが求められます。日本チームは昨年同様メンバーの一人が空手で板を割り、各国の若い人の応援を得て、大勢の参加者によりにぎやかに終わりました。



さよならパーティ



和装での参加者



日本チームのパフォーマンス

26日(木)は、テクニカルツアーに参加しました。テクニカルツアーは3つのコースが企画されていて、それぞれ自分の興味により選択して参加します。私はひとり、ホンダの現地工場を含むコースに参加しました。オートバイの組み立て工場ですが、こちらでの組み立ては基幹部品を除いての組み立てだそうです。そのことを聞いて嘆いていた参加者の声が聞こえてきました。他に、ダム建設現場や産業パークのコースが企画されていました。

会場のホテルに戻ってから預けてある荷物を受け取り、前のホテルへ向かいました。ここからはまた単独行動になります。ホテルチェックイン後は街へ出、夜の屋台をのぞき、焼きそば、ビールを頼み、マッサージをしてホテルへ戻りきました。焼きそば 8RM、マッサージ 60RM/1hr。

27日(金)から帰途につく28日(土)夕までは、世界遺産の街ジョージタウンの街歩きです。初日は約半日の市内観光ツアーに参加しました。こちらへ来てからガイドブックに載っていた日本語の通じるツアー会社へ電話して申し込みました。日本語の話せる中華系のガイドが

シビルサポートネットワーク季刊誌 2016 年春号別冊

9:00 にホテルに迎えに来ました。他に日本人 5 人のグループが一緒でした。中部地方の若手不動産経営者の仲間で、年に 1 回親睦旅行をし、最近海外へ足を伸ばしているとのこと。日本から仕事の連絡があるようで、しきりに携帯電話で話していました。

ツアーのコースは、街中の著名な建物を渡り歩くものです。一部車から降りてトライショーを利用して動いた部分もあります。自転車で引く人力車といった風で、運転しているのは私より年上に見えました。老人のアルバイトといったところです。複合民族の街ジョージタウンはインド人街、中華人街、旧日本人街もあります。寺院や公開されている富豪者の旧邸宅もあり、往時の繁栄を忍ばせるものでした。ホテルのレストランでツアー参加者一緒に遅めの昼食をとって 14:00 に解散です。ツアー料金は 190RM (約 5700 円) でした。



旧市街地



華人の仏教寺院



コロニアル様式の市庁舎

その後はまた街中ひとり歩き。海沿いを中心に歩きました。コーンウォリス要塞は、東インド会社設立時に木造で建設されて、1810 年頃にレンガ造りに建て直されたとのこと。全盛期には英国王室の砲兵隊の駐屯地としての機能も果たしていたようですが、今は往時の面影を残すのみとなっていました。夜は串の屋台でつまみ食い。肉や野菜が容器に小分けされていて自由に選べます。1 本 0.5~1.8RM。



コーンウォリス要塞



近代的な建物



裏町のような

最終日は、再び屋台市場に出かけて土産を買い、昼にチェックアウトしました。19:20 発の航空機出発まで時間があるのでその後また街に出て 15:00 に戻り、出かけようとしたらホテルの女御主人が空港まで送って行くと言います。お言葉に甘えて送ってもらうことにしました。中国人ですか、と聞いたら、そう見えますか、マレー人ですと答えました。ペナン空港に到着した時お礼にタクシー代と同じ 50RM を渡したら受け取ってくれ、お別れにハグしてくれました。この島に来ることがあったらまた泊まりたくなりました。

シビルサポートネットワーク季刊誌 2016 年春号別冊

クアラルンプール経由で日曜日朝成田へ着きました。月曜日からは通常勤務なので当日中に気仙沼へ戻らなければならないのですが、この後、年に1回の友人たちとの集まりが横浜中華街でありました。成田でスーツケースを気仙沼に送り、中華街のホテルで友人たちと会いました。帰る時間ぎりぎりに途中退席して仙台へ向かい、最終の高速バスで気仙沼へ戻りました。

今回の CAFE0 参加はこれまでと違ったものになりました。気仙沼での復興支援で地方からの参加であること、国家公務員という身分になったために復興庁から海外渡航承認申請書の提出を求められました。参加のために時間と費用が今まで以上にかかります。業務への影響も考えましたが、参加を継続することにしました。おかげで 24 名の参加に立合うことができました。

CAFE0では組織委AFE0やFEIAP (Federation of Engineering Organizations in Asia and the Pacific) のミーティングも同時に行われるようになっていきます。FEIAPは、アジア太平洋地域のエコノミー(国あるいは地域といった単一経済体)にある技術士会(日本においては日本技術士会)の集合体です。ASEAN諸国が中心となり、その周辺エコノミーである日本、韓国、台湾、中国、オーストラリアなどを含んでいます。最近ではナイジェリアなどアフリカ方面のエコノミーも参加するようになってきているとのことです。FEIAPは、日本技術士会にとって周辺エコノミーとの人的および技術情動的交流の場となっており、国際委員会から2名派遣されていました。

若い技術者のプログラム YEAFE0 は今回独自のプログラムでの活動が多かったようです。日本から 18 名参加しましたが、13 年前、今は亡き高城(タキ)重厚氏とともに青年組織の会員 3 名が初めて参加したときからみると隔世の感があります。この会への日本の若い技術者の参加を強く望んでいた高城さんの思いが実現した瞬間でした。

ASEAN では昨年末、加盟する 10 カ国が域内の貿易自由化や市場統合などを通じて成長加速を目指す広域経済連携の枠組み「ASEAN 経済共同体(AEC)」が発足しました。域内人口は欧州連合(EU)を上回る計 6 億 2000 万人で、域内総生産が 2 兆 5000 億ドル(約 300 兆円)に達する巨大な経済圏が本格始動したのです。投資、人の流れを自由化し、関税を撤廃して域内の自由貿易圏実現を目指しています。ASEAN と日本との若い技術者の人的交流、人脈作りに役立てば良いなと思っていた当初の思いが達成しつつあります。



AEC の 10 カ国



YEAFE0 参加の若い技術者たち